



二葉幼稚園

2020年

園のたより 12月



12月の聖句

がくしゃたちは そのほしをみて よろこびにあふれた

マタイ2章10節

12月のさんびか

かみさまのおやくそく

幼児さんびか27



喜びにあふれて

今年度も園を支えて下さるふたば会は、活動縮小の中、せめて園内で秋祭りの楽しい一時を！と計画、準備をして下さいました。笑いの絶えない幹事さん達の楽しい雰囲気が、園長室まで伝わってきます。当日には感染が拡大している状況を鑑み、準備だけふたば会、実施は園。

おいしいとこ取りで子ども達との関わりや楽しんでいる様子をご覧頂けなかったのは残念ですが、後日「楽しすぎた〜！」と子ども達から幹事さんに直接声が届いたとのこと！子ども達のしあわせを願ひ、小さなエピソードを共有しながら喜び合える関係がありがたいなあ、としみじみ思います。

さて、今年、子ども達は(私達も)友達や大切な人との再会を何度も指折り数えて待ちました。希望を胸に抱きながら喜びの日が訪れるのを信じて待つ…。何気ない日常の尊さが身にしみる日々…。その昔、いつとは告げられず、人々は貧しい生活の中で救い主「すべての人に救いをもたらす希望の光」の誕生を今日か明日かと待ちました。そのクリスマスが今年も近づいて参ります。

「学者たちは、その星を見て喜びにあふれた」と今月の聖句。折しも11月29日の午前1時30分頃、西日本を中心に、流れ星の中でも特に明るく輝く火球が観測されました。もしかすると実際ご覧になった方がいらっしゃるかもしれません。画面上で見ても目を疑うほどの大いなる光。地方局によって映像は若干異なっていました。頭上から輝きながら流れ落ち、一瞬明け方かと思うほどの光が空を包みこみました。その後、しばらくの間、地平線に沈むでもなく、お月様のように明るくこの世を照らしていました。(願わくば落下せず、惨事になることなく…)その昔、不思議に光る大きな星を見つけた博士達。野原で羊の番をする羊飼達にも、不思議な光、天の使い達は現れました。アドベントが始まる聖日の明け方に、2020年前のクリスマスの夜の出来事を彷彿とさせる光でした。

世の中は、また緊迫した状況にあります。精神的にも肉体的にも疲労困憊する中で、誰かをそばに感じる事、誰かと言葉を交わすこと、笑うこと、共に涙を流すこと…で癒やされ、明日への勇気が湧いてきます。私達は子ども達や保護者の皆さまに会うだけで、計り知れないパワーを毎日頂いています。それでも尚、不安や恐怖や怒りなど心が暗くなる時は「人に言えば愚痴になることも、神さまに言えば祈りになる」という一文に触れ、なるほど納得。誰もいない礼拝堂で、時におい泣きながら、心の中にある言葉にならない思いを流す日もあります。すると幾分心が軽くなり、明日への活力が生まれます。礼拝堂は誰の物でもありません。その場を必要としている方の為にあります。「礼拝堂のある幼稚園で良かった！」皆さまにとっても、そんな身近な場所になれば嬉しく思います。生きにくい時代、どうぞ一人で抱え込まず、唯黙ってそこに座ってみる。嬉しい時にも是非。年長児が宿泊保育時には暗い中、一人で探検に行けるほど！？怖い場所ではないですよ！！

また新たな気持ちで、喜びあふれる二葉幼稚園でありますように！

2020年も皆さまの温かい励まし、ご理解・ご協力に心から感謝しております。【園長】